

第1回地域運営委員会サミット（地域運営委員会連絡会議）

日 時 平成28年3月16日（水）14時00分～16時00分

場 所 千葉市役所 8階 正庁

出席団体※設立状況は当該サミット開催時のもの

（設立済みの団体：7団体）

第36地区地域運営委員会、誉田中学校・平山小学校地区地域運営委員会

生浜地区地域運営委員会、松ヶ丘中学校地区地域運営委員会

幕張ベイタウン地域運営委員会、おゆみ野地区地域運営委員会

真砂地区地域運営委員会

（準備会等の団体：3団体）

磯辺地区地域運営委員会設立準備会、稲毛海岸地区地域運営委員会設立実行委員会

蘇我中学校地区コミュニティづくり懇談会

概 要

市では、地域で活動する様々な団体が連携・協力し、助けあい・支えあいによる地域運営を推進するため、平成26年度から地域運営委員会の設置を促進しています。

地域運営委員会間で情報交換や意見交換を行うことで、より良い活動につなげることを目的として、第1回地域運営委員会サミット（地域運営委員会連絡会議）を開催しました。

議事要旨

（市民自治推進課長挨拶）

市民自治推進課長

千草台中学校地区コミュニティづくり懇談会が区の行事により欠席となりましたが、多くの方々にご出席いただき感謝します。地域運営委員会は、平成24年度から国・県の事業で始まった「円卓会議」のモデル事業を発展させる形で、平成26年度に制度化し、既に8地区結成されています。

全国的にも、早い都市では10年前から実施しており、現在では、住民組織で地域づくりを進める「小規模多機能自治」の拡大を目指す自治体の連絡会議に142の自治体が参加するまでとなっています。また、国においても、地域運営に関する研究会が毎年開催されています。

本来は、来年度から地域運営委員会連絡会議を開催する予定でしたが、1日でも早く、より良い地域運営が可能となるよう、平成27年度に開催することとしました。また、各地区の首脳が一堂に集結するため、「サミット」という名称にしました。

地域運営の目指すところは、市民自治、地域自治です。行政が一律に設定した課題に対し、縦割りで交付される補助金を消化するということではなく、「地域住民が最も知っている」「地域の課題」を「地域で共有し」「地域で企画立案し」「実施する」ことが重要です。その際には、地域の様々な主体がそれぞれ活動するより、力を合わせて考え、活動する方が効果的なはず、という信念を持って推進しております。

統合補助金である「地域運営交付金」の制度も今年度からスタートしました。本年度は3地区、平成28年度は8地区に拡大する予定です。地域で事業を決める一方で、予算は市の縦割りに制約を受けるというのではなく、地域自治は、事業も予算も地域が決めることが大切だと考えています。ただし、交付金という名称ですが、あくまでも補助金だということを理解して活用していただきたいと思います。

なお、この交付金については、はじめは従前どおりに配分することで構いませんが、地域の課題の共有化が進むにつれ、重点課題への配分や、複数年度にわたる計画に基づく配分ができるものと信じています。松ヶ丘地区では、来年度に配分変更を予定していると聞いています。市としても、今後、統合メニューの拡大に努めたいと考えています。

本日は、各地区の取組みや課題をお聞きいただくとともに、質問や意見交換をしていただき、今後の地域の取組みに生かしていただきたいと思います。より良い議論の場となることを期待しています。

(地域運営委員会(準備会)の活動状況及び課題について)

第36地区地域運営委員会

今回の議長を務めます。今回はお互いの地区の事情を把握し、より良い意見交換ができるサミットにしたいと考えています。

さて、第36地区地域運営委員会は市内で最初に設立された地域運営委員会です。平成26年9月に設立しましたが、これには前提として、当地区にモデル事業としての実績があった背景もありました。

その中で残っていた課題は、やはり拠点の開設についてでしたので、まずは、これから取り掛かる必要がありました。そのような中、最適の候補物件が浮上し、これを地域の拠点にしようと決議しました。そして、平成27年度に美浜区の地域活性化支

援事業における拠点開設支援を利用し、昨年11月に、拠点である「幸町1丁目ふれあい交流館」を開設することができました。

この施設は火曜日が定休日ですが、それ以外は毎日開館しており、時間帯を2部に区切って運営しています。拠点を設けたことで様々な事業が展開しており、年間の利用者は1万人程度を見込んでいます。

また、当委員会では36連協地域安全マップを作成・配布し、また、地域にAEDを20か所設ける等、住民の皆様が万が一の時に円滑に行動できるよう図っています。

誉田中学校・平山小学校地区地域運営委員会

誉田中学校・平山小学校地区地域運営委員会は、学校区としては主に誉田地区と平山地区から構成されています。平成26年度末に準備会を開催し、そこで役員を決め、急いで地域運営委員会を立ち上げました。

そういった状況でもあったので、平成27年度は、事務局会議を6回、調整会議を2回行いながら、地域運営委員会としての課題や、それに対する対策等を模索してきました。

今後、地域運営委員会として各団体との関係を強化する必要がありますが、まだまだ各構成団体が個別に動いている状況なので、一枚岩となるには時間がかかると思われます。

生浜地区地域運営委員会

生浜地区地域運営委員会は平成27年4月に設立しました。組織の概要、設立の経緯等は配布資料に記載のとおりです。

地域運営委員会における活動ですが、これまでの経緯の中での課題を整理したうえ、当面は青少年部会、高齢者・要支援者部会、防災部会の3部会で運営していくこととし、諸団体が協力して特定の課題に取り組めるよう、各団体が行っている活動に関する情報交換や共有を実施しています。各部会には事務局も設けています。

現在、各部会で平成30年度までの中期的な活動計画を立てており、その実現を目指して活動しているところです。

平成27年度に地域運営委員会を設立することができた背景には、平成23年度から各団体と連携していた組織があったことや、どうしても事務局を強化する必要があると感じていた中で、優秀な事務局員が揃っていたこと等だと考えています。

今後の課題ですが、まず、生浜地区をどうしていくか、そのための現状分析を行う

こと、そして、事務局をより強化すること、最後に、活動が活発になるにつれ伴う財源をどのように工面、運営していくのかという点です。

松ヶ丘中学校地区地域運営委員会

松ヶ丘中学校地区では多くの行事が行われており、これまで、コミュニティづくり懇談会がその主な役を担ってきていましたが、地域運営委員会の話が行政からあり、平成27年度に松ヶ丘中学校区地域運営委員会がコミ懇を再スタートするという形で設立されました。

地域運営委員会のメンバーは現在39団体で構成されていて、各団体から年会費をいただいている運営していますが、各団体が非常に活発に動いているので、基本的には今までどおりの活動で良いとしています。その意味で、地域運営交付金をこれまで受けてはいませんでしたが、一年間検討してきた結果、来年度から受ける予定で動いています。

松ヶ丘中学校区は自分たちのまちは自分たちで守るという意識が強い地域ですので、毎月公民館を借りて、各団体の長が集まり、各団体の活動状況や問題点を出しあって会議をしています。

なお、地域の拠点については、民間の施設を借り上げて、「ひだまり」という施設を運営しています。ここの利用頻度は非常に高く、近くに公民館がありながら、それに匹敵する利用頻度となっています。

幕張ベイタウン地域運営委員会

幕張ベイタウン地区は主に企業庁が立案、再開発してきた地域で、当時は極めて先進的な考え方をベースにしてできた街になりますが、企業庁が閉庁され、その後の環境をどうしていくのか、その後の街の管理をどうしていくのか、そういった点を検討していかなければならないと感じていた中で、まずは、街のあり方研究会を立ち上げて各種課題に取り組んできました。

そして、幕張ベイタウンの景観、安全で快適な都市環境等の維持・向上を図り、幕張ベイタウンの住民等による会員の共通の利益を増進することを目的とした幕張ベイタウン協議会を設立しました。この協議会に地域運営委員会の考え方を取り入れ、平成27年5月に幕張ベイタウン地域運営委員会が設立されました。

地域の活動拠点は当初廃止予定であった千葉市所有のこどもルームで、光熱費等の管理運営費用は一切支出されないとの条件ですが、そちらを無料で利用しています。

地域運営委員会を設立した結果、各団体の情報共有が円滑になり、また、学校が委員会に入っている関係で、これまで以上に学校との連携がうまく取れていると感じています。

今後の課題は活動資金をどうするか、自主財源をどのように確保するのかという点で、その解決策としてのコミュニティビジネスの導入を検討しています。

おゆみ野地区地域運営委員会

おゆみ野地区地域運営委員会は平成27年5月に設立されました。おゆみ野地区は比較的新しく開発された地域ですので、地域の基礎となる町内自治会が存在していなかったり、町内自治会としての歴史が浅いという背景からも、他の地域に比べ求心力がない点は否めません。

ただし、町内自治会以外の団体が活動的で、また、一つの団体だけでなく、それぞれの団体が協力しながらまちづくりを進めてきた背景があります。

地区には既にコミュニティづくり懇談会が存在していましたが、これが立ち行かなくなったことや、過去にモデル事業としての実績があった経緯があり、現在の地域運営委員会の形となっています。

今後の課題は、組織の構成が役員のみなので、どのように構成員を増やし、委員会を拡大していくのかということや、委員会が拡大することに伴う負担にどう対応していくのかということ、また、地域の拠点の必要性はありますが、果たして運営が可能なかどうかといった点等です。

真砂地区地域運営委員会

真砂地区地域運営委員会は、従来からあったコミュニティづくり懇談会の中に設立検討準備会を設け、コミ懇を解散し、それを引き継ぐ形で平成28年3月に設立されました。

構成団体は行政から示されている必須5団体に老人クラブ連合会と交通安全協会を含めたものです。

今後の活動としては、地域カルテを分析し、地域課題の抽出及び解決策を模索することや、ワークショップや学識経験者等による研修会を設け、課題処理や解決技法のレベルを向上すること等を計画しています。

運営上の課題は、地域議題の検討内容・決定事項等の情報を各団体と共有しても、その情報が各団体の末端まで周知徹底されなければ効果が期待できないと考えていま

すので、何か工夫点を模索していく必要がある点や、今後会議が増えるにつれ、事務局の負担が増大することが予想されますので、要領の良い事務運営対策を検討する必要があります点等と考えています。

当地区は、地域運営委員会が設立されたばかりですので、まずは地域の分析や、期待される地域のあり方にいかに近づき、解決に結び付けるか、そういった点を話し合いながら試行錯誤を続けることになるのではないかと考えています。

磯辺地区地域運営委員会設立準備会

磯辺地区地域運営委員会はこれからスタートする段階ですので、現時点では準備会となっています。設立に向けて動き始めたきっかけは、昨年7月の区民対話会にて、行政からの説明を受けたことです。区民対話会後にさっそく準備会を設立し、まもなく、平成28年3月末の設立総会にて正式に委員会が設立される予定です。

活動拠点は昨年5月にできた磯辺地域ルームとなっています。ここの運営は、それまで磯辺地域ルーム管理運営委員会が行っていましたが、地域運営委員会における各団体の代表者が集まって、今後の運営方法について半年かけて議論し、地域運営委員会がそれにとって代わる形で引き継ぐことになりました。この運営方法の検討過程は地域運営委員会設立におけるプロセスの中で非常に役立ちました。

今後の課題としては、これからスタートする段階なので想定できないものが発生する可能性があります。各団体との連携をどのように深めていくのかという点や、各団体の重複事業をうまく整理、統合していけるのかという点、また、地域運営交付金の使途、配分をうまく実施できるかという点ではないかと想定しています。

稲毛海岸地区地域運営委員会設立実行委員会

稲毛海岸地区地域運営委員会はまだ準備段階でして、現在、平成28年5月の設立に向けて動いているところです。磯辺地区同様、区民対話会の後に、設立実行委員会を設け、これまでに準備会を3回開催してきました。

稲毛海岸地区では、地域運営委員会設立実行委員会の設立前から、既に各団体との連携がうまくできていましたが、地域運営委員会を設立することで、資金的なメリットを享受できることや、各団体の会計事務の負担を軽減できることを期待しています。

蘇我中学校地区コミュニティづくり懇談会

市から地域運営委員会と同様の制度について、全国的にうまく機能していると言わ

れている事例を見せてもらいましたが、そのほとんどがコミュニティづくり懇談会の活動内容と相違ないものばかりだったので、正直、この地域運営委員会を設立する意味が本当にあるのかという疑問があります。

また、紹介していただいた他市の事例では、市町村合併といった特有の事情もあり、補助金額や人的な支援が千葉市とは比較にならないほど手厚い等、あまり参考にならないのではないかと感じており、この制度における千葉市としてのあり方をしっかりと練り上げる必要があるのではないかと感じています。

そこで、まずはトライアルとして、当コミ懇が地域運営委員会に移行するにあたっての問題点を把握するため、区の地域活性化支援事業を利用しながら、平成26年度に災害時の不安を軽減する安心・安全体制づくりを、平成27年度に福祉的配慮が必要な人をケアする避難システムづくりを事業として行いました。詳細は配布資料のとおりです。

当地区には昭和61年に設立されたコミュニティづくり懇談会があり、非常に活動的な組織となっています。地域運営委員会の設立に時間がかかっていますが、平成26、27年度のトライアルと並行し、この制度について検討してきた結果、平成28年度に地域運営委員会を設立する予定で動いています。

(意見交換)

おゆみ野地区地域運営委員会

第36地区地域運営委員会の拠点運営に関してですが、何か工夫されていることはありますか。

第36地区地域運営委員会

拠点である「幸町1丁目ふれあい交流館」の運営委員会を組織して、そちらを中心に管理運営を行っています。また、10時から16時までと、16時から18時まででコンセプトを設け、2部制で運営しています。

なお、実際に運営を支えている方は90名程度のボランティアです。ボランティアの方々の多くが女性となっています。

磯辺地区地域運営委員会設立準備会

地域運営委員会を設立していても、地域運営交付金を受け取っていない団体がありますが、何か理由はありますか。

松ヶ丘中学校地区地域運営委員会

当初から行政に頼らず、地域の力のみで運営していこうという考えがありますので、地域運営委員会を組織しても、基本的には既存の団体が中心、核となって運営しています。

第36地区地域運営委員会

平成28年度から地域運営交付金を導入予定ですが、民児協については県と市からお金が下りてきていて、今までの経緯からどうしても割り切れないところがあるので、その部分だけは外しました。地域ごとの事情がありますので、そういった部分を検討したうえで地域運営交付金を導入する必要があると考えています。

磯辺地区地域運営委員会設立準備会

磯辺地区では老人クラブの部分は統合していませんが、それを除く縦割りの補助金を一括化して、柔軟性を持てるものにしたいと考えています。

おゆみ野地区地域運営委員会

地域運営委員会における事務局の強化も課題の一つと考えていますが、何か工夫していることはありますか。

磯辺地区地域運営委員会設立準備会

当地区では各団体から2名から4名ほど出してもらって、事務局を担ってもらっています。設立当初はそこからスタートしてみようと思っています。

真砂地区地域運営委員会

松ヶ丘中学校区ではホームページを立ち上げていますが、その運営方法や費用負担等について、何か苦労していることはありますか。

松ヶ丘中学校地区地域運営委員会

ホームページは運営委員会で広報部会を設け、そこがイベントごとに写真を撮影し、事務局がホームページに掲載しています。更新は即座に行っています。費用は年11,000円、プロバイダ料金として計上しています。ホームページの作成までは苦労しましたが、その後の更新等についてはとくに負担を感じていません。

おゆみ野地区地域運営委員会

生浜地区では部会を作っていますが、例えば、育成委員会が既に実施していることをあえて地域運営委員会が実施する利点がありますか。

また、部会ごとに会議の開催頻度は異なるのですか。

生浜地区地域運営委員会

各団体の活動は、縦で見た時にはどうしても、その団体がどういった活動をしているのかということしか分かりませんが、地域運営委員会として横で見たときに、各団体の似たような活動や、そういった点を踏まえてもっと良いすみわけ方法があるのではないかといったことを検討することができると思っています。そういった場所としてこの部会があります。

なお、各部会の会議ですが、各部会の進捗に応じての開催頻度が異なっています。

磯辺地区地域運営委員会設立準備会

各団体にはその活動に詳しい方が何人かいるはずですが、その団体だけで活動しては行き詰ってしまうこともあるかと思います。組織として地域全体を把握しやすくなるという狙いがこの地域運営委員会にあると考えています。

蘇我中学校地区コミュニティづくり懇談会

千葉市は各地域の団体と行政の繋がりが非常に強いと感じていて、補助金についても、千葉市ほど多様に支出している事例はないのではないかと思います。

しかし、このように多種多様な補助金が存在する中で、地域運営交付金として位置づけられているものはごくわずかです。

このような状況下、地域運営委員会で地域課題を決めて、課題ごとにウエイトを設け、補助金をどう配分していけというのでしょうか。現時点では、とてもそのような状況ではないと感じています。

市では、地域が本来の地域運営委員会の形となるような具体的なプログラムがあるのでしょうか。また、何年度までにその目標に達するといったような目途はあるのでしょうか。このあたりが明確になっていないという点が課題ではないのでしょうか。

市民自治推進課

地域運営交付金をスタートするにあたっては、全ての補助金等をリストアップし、

まずは経常的に予算付けされているものを各所管課と調整のうえ、初年度は8つの補助金ということで落ち着きました。

確かにまだまだ十分な数とは言えず、また、いつまでにとという目途もはっきり答えることはできませんが、今後、地域運営交付金として統合できるものを増加させていくことを課題と考えています。統合できる補助金を増やしていくには、地域の方の要望も踏まえながら、各所管課と協議していきたいと考えています。

第36地区地域運営委員会

地域ごとに状況が異なるので、この制度を画一的に進めることは難しいかと思いません。

市民自治推進課

市としては、地域運営交付金として統合できるものを広く構えておいて、地域ごとの事情に応じてそれらが運用されるようになればと考えています。

ただし、所管課との協議を要することもあり、何年度までにとといった補助金等を統合するのかといったことは、今の段階では明確に答えることができません。

蘇我中学校地区コミュニティづくり懇談会

補助金だけでなく、各地域の団体と行政が強く繋がっている事例はたくさんあると思います。そういった状況の中で、地域が補助金の配分を決定するという事は非常に難しいことだと感じています。それはいずれ行政の方にも課題として見えてくることになると思います。

いずれにしても、この先のプログラムを早く完成し、提示してもらいたいと思いません。

第36地区地域運営委員会

地域運営委員会は、各地区で画一的に進めて行くことは難しいと思っています。また、年に1回のサミットのみでは、各地域の情報を把握することは難しいかと思いません。例えば、各地域で出している広報誌等を定期的に参照させていただければありがたいです。市民自治推進課にはその辺りの調整をお願いできればと思います。

また、来年度以降もサミットの開催を予定しています。各地区との横の連携を図っていきたいと考えていますので、引き続き、どうぞよろしくお願いたします。